

令和7年度 東京都立小台橋高等学校 学校経営計画

1 目指す学校

(1) スクールミッション

生徒一人一人が安心して学ぶことができる時と場を提供するとともに、志をもって入学した生徒に対し多様で柔軟な教育を実施し、不確定な未来を生き抜くための幅広い総合的な学力を身に付けた人材を育成します。

(2) アドミッション・ポリシー

- 本校の教育の特色を理解し、それらを生かした学習活動に取り組むことができる生徒
- 入学後の高校生活とこれからの人生に志（夢や希望）をもっている生徒
- 自他を尊重し、かつ責任ある行動に移せる生徒

(3) カリキュラム・ポリシー

- 生徒一人一人のウェルビーイングに焦点を当てる
- 多様で柔軟な教育活動を実施する
- 総合的な資質・能力を身に付けさせる

(4) グラデュエーション・ポリシー

- 新たな環境で、学びや勤労にチャレンジする生徒
- 良き社会の一員として自立する生徒
- 自ら調べ、自ら考え、自ら発する生徒

2 中期的目標とその達成に向けた方策

(1) 学校経営

① 個別最適な学びと支援の推進

- ・一人ひとりの状況やニーズに合わせた、きめ細やかな学習支援と生活指導を充実させる。
- ・必要に応じて個別の教育支援計画（IEP）等を作成し、生徒の強みや課題を把握した上で、適切な学習プログラムや支援体制を構築する。
- ・ICTを活用した学習支援や、学習環境の整備し、いつでも、どこでも、誰もが学習できるようにする。

② 社会的自立に向けたキャリア教育の充実

- ・生徒の社会的自立を促すため、キャリア教育や就労支援を強化し、生徒が社会で活躍するための能力を育成する。
- ・インターンシップや職場体験などの機会を設け、生徒が実際の職場で経験を積む機会を充実させる。
- ・地域の企業や大学、NPOなどと連携し、専門的なキャリアカウンセリングや就職支援の場を増やす。

③ 安心・安全な学びの場の提供

- ・学校に対して不安や抵抗感を軽減させるため、安心して過ごせる居場所としての、温かく安全な学校環境を構築する。
- ・生徒の意見を尊重し、生徒が主体的に学校生活に参加できるような環境づくりを行う。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、専門スタッフによる相談体制を整備する。

④ 地域社会、企業、関係機関等との連携強化

- ・地域の企業や団体と連携し、キャリア教育や体験学習の機会を設ける。
- ・地域との交流やボランティア活動を通じて、生徒の社会性を育成する。

⑤ 組織体制の整備と教職員の専門性向上及びライフ・ワーク・バランス

- ・生徒一人ひとりに寄り添った支援を行うため、組織的な支援体制の構築を図る。
- ・教職員の研修機会を充実させ、生徒の多様なニーズに対応できる専門性を向上させる。
- ・組織及び自らの定めた目標達成に向けたライフ・ワーク・バランスを実現する。

⑥ 学校経営の参画

- ・経営計画や予算編成指針に基づいた予算編成、学事、施設管理、学校環境の整備、募集対策、入学選抜業務など経営企画室の学校経営への参画を推進する。

(2) 募集・広報活動

- ・多様な生徒の確保と入学機会の拡大に努める。
- ・募集定員の充足と安定的な学校運営を行う。毎年の応募倍率を1.2倍超とする。
- ・チャレンジスクールの認知度向上とイメージを確立させる。
- ・学校の魅力発信と信頼感の醸成させるための広報活動を行う。

(3) 学習活動

- ・個別最適化された学習指導の展開するため、生徒の学力や進捗状況を多角的に把握し、一人ひとりに合わせた教材や課題、学習方法を検討する。
- ・体験的・探究的な学習を重視する。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを積極的に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。
- ・教科の学習内容と将来の職業や社会生活との関連性を意識した指導を行う。
- ・生徒の学習状況や進路希望に応じて、多様な選択科目を設置する。
- ・情報リテラシー教育を推進し、情報社会で主体的に生きる力を育成する。また、オンライン教材や学習アプリなどを活用し、生徒の個別学習を支援する。
- ・生徒の主体性を引き出す評価をするため、通常のテストだけでなく、レポート作成、プレゼンテーション、ポートフォリオ評価など、多様な評価方法を取り入れる。

(4) 進路指導

- ・生徒が自身の個性や強みを認識し、主体的に進路を選択・決定できる力を育成するため、多様な体験学習の導入、インターンシップ、ボランティア活動、地域連携プロジェクトなどを積極的に導入する。
- ・生徒一人ひとりの状況や課題を丁寧に把握し、定期的な個別面談を通して、自己理解を深め、進路に関する悩みや不安を解消する。
- ・保護者、中学校、地域社会、大学、専門学校、企業など、様々な関係機関と連携し、生徒の進路実現に向けた支援体制を構築する。
- ・進路指導に関する研修機会を充実させ、教員の専門性を高め、生徒一人ひとりに寄り添った質の高い進路指導を提供できる体制を整備する。

(5) 生活指導

- ・生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができ、自己肯定感を育み、他者との良好な関係を築ける温かい居場所となる学校づくりを目指す。
- ・教職員が生徒一人ひとりの状況を把握し、傾聴と共感を基本とした丁寧なコミュニケーションを心がけ、必要に応じた個別支援を行う。
- ・清潔で落ち着いた学習環境を整えるとともに、生徒がリラックスできるスペースや交流できる場所を確保し、安心感とコミュニケーションを育む。
- ・生徒が自身の存在価値を認め、自己肯定感を高めるとともに、社会の一員としての自覚を持ち、基本的な生活習慣や規範意識を身につける。
- ・生徒が主体的に考え、行動する力を養い、社会の一員として自立した生活を送るための基盤を育成する。
- ・生徒の成長を促す教育活動の一環として生活指導を行う。学校生活の満足度、学校への定着率とともに約8割とする。また、体罰・いじめ・暴力ゼロ、自殺ゼロを目標に、外部機関と連携を取りながら、すべての教育活動を使って計画的・横断的に予防・対応を図る。

(6) 特別活動・部活動

- ・教育活動の一環として効果的で特色のある行事を実施する。成果発表会を課題研究の集大成として取り組み、達成感をもたせるとともに今後の学びにつなげる。また、体育祭的な行事と文化祭的な行事については、生徒のウェルビーイングに資するとともに、高い教育効果をもたらす工夫をする。
- ・広報活動に取り組む有志やボランティア活動を行う団体を課外活動として活躍させる。部活動は部活動指導員を活用するなど、教員が負担を感じない工夫をする。

(7) 健康づくり

- ・外部機関と連携を図りながら計画的に保健指導、カウンセリング、特別支援教育、体力づくりを実施する。

3 当該年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

(1) 学校経営

- ・教員と経営企画室の連携を密にして、自立経営予算や学校徴収金の適正な執行、施設管理、学

事、募集対策、入学選抜業務など、効果的効率的な学校経営を推進する。

- ・主幹教諭をリーダーとして、各分掌、年次等の調整、課題整理、新規事業発案等に取り組み、企画調整会議において課題解決に取り組む。
- ・服務事故の未然防止、生徒、教員の事故ゼロを目指し、組織的に対応する。
- ・組織内の業務の効率化を図る。また、勤怠管理を徹底と休暇取得の励行をそれぞれに進め、メリハリのある働き方を進める。

(2) 募集・広報活動

- ・入学者選抜の結果をもとに、今後の対応策を検討する。
- ・ホームページの内容、更新頻度の充実を図り、学校関係者、学校に興味関心を抱いている方々へメッセージをリアルタイムに発信する。
- ・各種説明会を通じ、保護者、中学生、関係機関への学校理解を深める。
- ・本校の在籍生徒の出身校を分析し、アプローチの足りない地域、層への募集活動を充実させる。
- ・関係機関と連携した本校の教育活動の理解啓発を行う。

(3) 学習活動

- ・単位制総合学科、ゼミ教育など本校の特徴を活かした教育活動を充実させ、主体的に考え、決断し、行動する能力を育成する。
- ・教科主任会や教科会において、主体的、対話的で深い学びや観点別評価の実践に向けた取り組みについて協議を重ね、より最善の授業改善となるよう取り組む。
- ・学校に登校したくてもできない生徒等に対して、文部科学省の不登校防止と特例校の認可による「通信の方法を用いた単位設定」の活用外部単位取得について検討し、柔軟な単位修得方法を検証・実施していく。
- ・不登校の生徒が教室以外でも学ぶための支援に取り組み、多様な学びを実践する。
- ・一人一台端末、スマートフォン等の通信機器を活用した、デジタル活用能力を高めるための取り組みを推進し、授業改善に努める。
- ・多文化共生の精神を特色ある科目の指導やJETを活用した教育活動で涵養しグローバル人材を育成する。
- ・図書館の活用を推進し、学習意欲を高め、情報リテラシーを育成し、自律的な学習を支援する。

(4) 進路指導

- ・生徒一人ひとりに合わせた面談や個別指導を行い、生徒のキャリア計画を明確化し、進路実現に向けた支援を行う。
- ・分掌、年次、教科の連携を深め、生徒の進路実現に向けた履修指導、ゼミ指導、課題研究を充実させる。
- ・職業体験の機会を設け、希望者に対して仕事を体験させることで、進路先の不一致を防止する。
- ・オンラインで利用できる学習支援ツールを活用し、自宅でも効果的に学習を進めることができるようにする。

(5) 生活指導

- ・小台橋スクールライフや小台橋ユニバーサルデザインに基づき、指導や支援内容の共通化を図る。
- ・学校や社会のルールやマナーを守る指導をすることで、生活習慣の確立や規範意識の育成を図る。
- ・日常での声掛けなどにより、思いやりの心を育成するなどして、心の教育の充実を図る。
- ・関係機関との連携を強化し、避難訓練、交通安全教室、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、SOSの出し方に関する教育などの安全教育を充実させ、生命尊重の精神や自助、共助の精神を育てる。
- ・生命やいじめに関する、日常での生徒観察や対応に努め、教員間での情報の共有化を図り、それぞれの早期発見・対応に全力を尽くす。

(6) 特別活動・部活動

- ・スポレク祭や芽吹祭において、生徒の自主的な運営を促し、生徒同士の協力や連帯感を深め、生徒が自分の才能や創造性を発揮する機会とし、自信を持って自己表現する力を育てる。
- ・学校行事を通じて、公共の精神や社会性を養うとともに、集団行動を学ぶ機会とする。

- ・活動を通じて、他者と協力し合うことで、コミュニケーションの機会を増やし、自己表現のスキルを向上させ、他者との交流に自信をもつことができるようにする。
- ・小さな目標を設定し、それを達成することで自信をつけさせる。ポジティブなフィードバックを通じて、生徒の努力を認め、さらなる成長を促す。

(7) 健康づくり

- ・生徒が悩みを相談しやすい環境を作るために、定期的な面談や、SC、YSWとの連携を図る。
- ・他者との関係をつくることができるように、交流プログラムの実施や、心理的なサポートを提供する。
- ・カウンセリングマインドをもって接し、生徒の感情を整理させ、ストレスを軽減できるようにする。
- ・学校内外でのサポートネットワークを構築し、生徒が必要な時に支援を提供する。
- ・生涯スポーツの視点をもたせ、運動に親しむ機会をつくり、基礎体力の向上を図る。
- ・食に関心をもたせ、給食や様々な活動をとおして自身の身体づくりを行えるようにする。

(8) 研究・研修

- ・チャレンジスクールについて理解を深め、特別な支援について学び、資質向上を図る。
- ・生徒一人ひとりの学力や特性に合わせた指導の技術を向上させる。
- ・生徒の学習意欲を高めるための指導方法を学び、興味をひく教材の作成に向けて取り組む。
- ・生徒の安心・安全のために、信頼関係を築き、悩みに寄り添うためのスキルを教員が身につける。
- ・スクールカウンセラーや専門機関との連携方法を学ぶ。

4 重点項目及び数値目標

チャレンジスクールの使命である、不登校、転退学生徒の減少を目指し、以下の重点項目に取り組む。生徒の安心、安全を第一にした学校運営を推進する。

(1) 学校経営

すべての教職員が、常に生徒の安全、業務の改善・効率化を検討し、昨日よりもプラス1の前進を積み重ねる努力をする。教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現に取り組む。

年休取得15日以上、会議時間45分以内、勤務時間外の在校時間の指導と自己管理の推進。

(2) 募集広報

説明会来場者が増加し入選倍率を確保する。

学校見学会・説明会の来校者数1000組以上、応募倍率1.2倍以上、ホームページ更新等情報発信年間200回以上。

(3) 学習指導

各教科・科目において、「学びなおし」の手だてを工夫し、生徒それぞれの学力向上を図る。誰一人取り残さないための学習支援を行う。

生徒による授業評価満足度80%以上、教員相互の授業参観年間3回以上、単位修得率向上、中途退学者率減少、学校外学習単位認定の促進。

(4) 進路指導

多様な進路希望に応じた進路指導の充実を図る。

一人一人の生徒に寄り添った指導を工夫する。進路決定率80%を目指す。

(5) 生活指導

学校生活の満足度、学校への定着率が高める。

生徒による学校満足度90%以上。学校に定着している生徒85%以上。個々の生徒理解を進め、基本的な生活習慣確立の支援。問題行動の未然防止（体罰ゼロ・いじめゼロ・暴力ゼロ、自殺ゼロ）、外部団体と連携強化を図る。

(6) 特別活動・部活動

運動系文科系問わず、活動の中で楽しみや喜びを見つけ、仲間とともに達成感を味わう。

学校行事満足度80%。

(7) 健康・保健指導

生徒一人一人が安心して学校生活を送れる居場所を提供する。多様なニーズに対応できる教育相談体制を整える。

教育相談に資する勉強会、研修の充実。外部機関と連携した相談体制の整備・拡充。チャレンジスクール間での情報交換・連携の推進。